

大旦町会だより

第139号

■発行日
2026年7月10日
■発行責任者
大槻 研司
■編集・印刷
齋藤 馨

壮年ソフトボール大会で

大旦チームが見事に優勝

六月一四日。福島市緑地公園グラウンドで、第四一回岡山地区壮年ソフトボール大会が開催され、我が大旦チームが大差で優勝しました。壮年とはいえ、レフト後方の葦に飛び込む大ホームランが飛び出す等、



相手チームを圧倒しました。

参加は七チームで、初戦は高畑チームと、二回戦は当木チームと対戦し、大差で勝ち進みました。決勝戦はま

ちうちチームと対戦し、昨年は惜敗しましたが、今回は奮起し大差で見事に優勝を果たしました。

壮年とは言っても年齢的に若い層が多く、鋭い大きな打球が飛び出しました。大槻町会長も駆け付け、大声での応援が功を奏し、優勝を引き寄せました。

大旦町会第五位に

岡山体協発表

岡山体協では毎年、前年度の町会対抗大会の総合成績を発表しており、大旦町会は七位から五位に成績が上がりました。今年度も皆さんの応援宜しくお願いします。

ソフトバレー

ボール大会

健闘するも惜敗

六月七日、東部体育館で第三回ソフトバレーボール大会が開催され、大旦町会からA・B・Cの三チームが参加しました。

Aチームはベスト8まで勝ち進みましたが、他の二チームは惜しくも予選で敗退しました。各スポーツ大会への出場選手を確保するのは大変であり、渡辺昌広体育部長の毎回開催時におけるご苦勞に感謝し、今後の活躍を期待します。



第一回役員会開く〈四月二十六日〉

今年度最初の役員会を開き、次の通り各担当より報告がありました。

- 一、町内会、活動総合保障制度
- 二、市道除草・清掃活動に対する助成金申請
- 三、子どもを見守る会活動



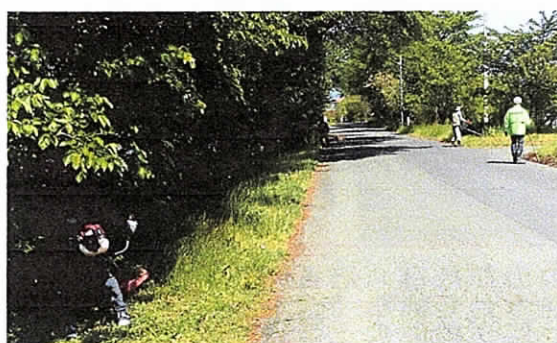
- 四、健全育成活動
児童数六二名、その内新入生は一名
- 五、ごみSTの現状
1.ごみネットの補修や更改
- 2.残留物の一斉分別作業を、毎月第四日曜日の午前七時から実施
- 協議事項は次の通り
- 一、東部地区自治振興協議会への要望事項
- 二、大旦集会所の清掃
五月二四日午前七時から実施。対象は一班、一二班
- 三、全市一斉清掃
六月七日午前七時から実施
- 四、大旦町会の役員体制

桜土手 春の除草実施

五月二日午前九時から町会役員と桜守の会員二一名が参加し、見苦しくなった桜土手の雑草を刈り払いました。

毎年三回ほど実施しておりますが、大旦の先人が残された桜並木を守るため、皆さんの協力を得ながら環境整備に努めております。

春の桜花と秋の紅葉が綺麗で、一〇月には真っ赤な彼岸花が咲き競い、桜土手を飾ります。



桜苗木寄贈される

尾形多門さん、多勝夫さん
米寿と還暦記念に



このほど、五班の尾形多門さん、多勝夫さん親子より吉野桜の苗木一〇本が寄贈され、早速桜土手に植栽しました。多門さんは米寿を、多勝夫さんは還暦を迎えられ、その記念として贈られたものです。

桜土手の東端は桜の木が少なく殺風景のため、将来を考えて贈られたものと思います。

お二人は日頃から町会へのご理解と、桜土手への思いを強く持たれ、いつもアドバイスをいただいております。

今後町会と桜守の会が協力し、桜土手の景観を守っていかねばなりません。この度は大変有難うございました。

鳩レースで数々の賞を獲得 21 班の小竹章さん



た勝度で〇九
こし優五 km 〇

約七〇年間にわたって伝書鳩の世話とレース参加に取り組んでこられた二班の小竹章さんにインタビューし、これまでの苦労や喜びについてお伺いしました。

【Ｑ】いつ頃から鳩を飼いはじめましたか。

【Ａ】昭和二十九年で、中学一年一三歳です。現在は八四歳です。

【Ｑ】鳩を飼おうと思ったきっかけは何ですか。

【Ａ】同級生が飼っていたことです。

【Ｑ】何羽くらい飼っていましたか。

【Ａ】最初は一羽で、鳩レースに参加するようになってからは常に百羽以上でした。

【Ｑ】市内には同じようにレースに参加していた方はどの位いましたか。

【Ａ】百名位です。

【Ｑ】最初のレースはどこから放鳥しましたか。

【Ａ】宮城県の瀬峰で、今から七〇年前です。

【Ｑ】思い出のレースを紹介してください。

【Ａ】西鹿見島一〇〇 km レースで三度優勝、四国



【自宅には沢山の入賞カップが並んでいる】

【Ｑ】何度も入賞している愛鳩

とです。一番の思い出のレースは、福島県、宮城県と合わせて四二九一羽のレース参加と、愛知県の豊川からのレース四〇〇 km で総合優勝したことです。

【Ｑ】一番遠い放鳥地はどこですか。

【Ａ】韓国で、無事帰って来た時は感激しました。

【Ｑ】今までのレースの成績はどうでしたか。

【Ａ】優勝した鳩は三〇羽で、一〇位までの入賞は五〇〇羽以上です。



五月二日、一班の班長さんによる集会所清掃

【Ｑ】一番心に残っているレースは何ですか。

【Ａ】平成二八年の四〇〇 km レースでの総合優勝です。

【Ｑ】レースの醍醐味は何ですか。

【Ａ】鳩が厩舎に向かって帰って来た時の姿が何とも言えません。愛とロマンですね。

【Ｑ】もう引退ですか。

【Ａ】昨年五月に島根県から八〇〇 km レースに三羽参加し、一位と二位でした。しかし高齢になり、このレースを最後に引退し、世話していた鳩も手放しました。寂しい気持ちはいくら続くでしょうね。

■小竹さん素晴らしいレース談義有難うございました。

大壇愛宕神社夏季例祭の実施日程は、八月一日(土)～一日(日)に決まりました。これまで企画検討会を開き、楽しく過ごして頂くため新しいメニューを取り入れたり、現在実行委員会の詳細を協議中です。なお、夏祭の詳細な内容については、別途全戸にチラシを配布しますので、ご確認ください。



きました。また、敷地内にあるゴミSTの整理も行いました。班長の皆さん、早朝から有難うございました。

大壇愛宕神社
夏季例祭の
準備が進む



【齋藤 馨】

私の小学校時代の夏休みは、毎日蝉取りで町内を走り回っていたものだ。夕方になると蝉の幼虫が七年間の長い土中生活から木の皮に這い上がって来るので、その前に地面を凝視してその穴を見つける。

この辺では蝉の幼虫の事を「ンマッコ」と呼んでいた。穴から這い出ようとしているンマッコを捕まえて持ち帰り、提灯の中に柿の葉と一緒に入れておく。翌朝早く提灯の中をそっと覗くと、左の絵のような綺麗な薄緑色の成虫が。茶色の皮を少しずつ脱いで這い出し、その姿はとても美しく、しばらく経つと本来の色になり、外に放してやる。今はなかなか目にする機会がない。

毎朝元気な子供たちを見てみると、自分の夏休み時代を懐かしく思い出す。

コラム



神秘的なセミの羽化

いよいよ夏休みになる。先日民報新聞に入ってきた「ハイッ! みんぼう」七月号の表紙を見たら、左の蝉の羽化の絵が載っていた。